

周年栽培でガッチリ～雇用（人）と収入の安定化へ～

大山町 角田圭慈（ツノダ園芸）

はじめに

私の両親はスイカ等の苗作りをしていましたが、台風でパイプハウス4棟全部が損壊し、農業をあきらめかけていました。そこで、将来的に就農を考えていた私は、歳（ 年前）の時、サラリーマンを辞め、台風に強いガラス温室を建て、家業の野菜苗作りを継ぐことにしました。

平成元年頃までは、春作のスイカなど野菜苗だけを作り、県内市場に出荷していました。秋はハウスが空いていたので、知り合いに「関西では花苗も売れ行きが良い」と教えられ、秋作に花苗を作るようになりました。当時、県内で花苗を作っていたのは さんと さんの2人だけでしたので、関西市場から期待されるようになりました。また、この頃、 にも納品するようになり、出荷量を増やすためにハウスを増設し、現在の規模まで拡大しました。

山あり、谷ありで苦勞もたくさんありましたが、今は、年間を通して花苗と野菜苗を生産し、関西を中心とした県外市場に加え、利益率の高い直売所にも出荷するようになりました。このたび、直売所への出荷量を増やし、さらに利益率を向上させるため、ハウスを増棟しようと考えています。

一方、4年前から息子が一緒に農業をするようになりました。野菜作りに興味を持ち、トマトや葉物など野菜を生産し「 エコ農業研究会」に加わり、エコファーマーを取得して「 」等に直売しています。野菜は、花苗の需要が少ない7～8月と12～3月に販売できるので、年間を通じた所得確保につながるようになりました。また、苗作りでは年間を通じた雇用ができませんでしたが、野菜を作ることで周年雇用も可能になると考え、このたび、野菜ハウスも増棟しようと考えています。

現在、息子には野菜部門の栽培を任せていますが、苗作りの勉強もさせているところです。今年から苗物の灌水作業を息子にさせています。

将来、息子に引き継ぐ農業基盤を整えるため、このプランを作りました。

1 経営等の現状と課題

(1) 生産、経営の現状 (平成 25 年)

作目	面積	生産量
花壇苗	ハウス 7 棟、15.24 a	26.4 万鉢
野菜苗	ガラス温室 1 棟、5.4 a 露地 25 a	5.5 万鉢
野菜 トマト、葉物	ハウス 1 棟、2.2 a	200 kg

(2) 労働力

本人	角田 圭慈	歳
子 (後継者)		歳
雇用	3~4 名	

(3) 花壇苗の主力品目

春・夏	秋・冬
ピンカ	パンジー・ビオラ
ペチュニア	ガーデンシクラメン
マリーゴールド	ハボタン
サルビア	その他
その他	

* 地元の直売所 () を中心に出荷しています。

* 花壇苗部会に所属し、関西方面の市場を中心に出荷しています。また、 の苗も生産しています。

(4) 農業機械および施設状況

機械・施設名	台数・棟数	能力・面積
軽トラック	4 台	
軽バン	1 台	
土入れ機	1 台	
ビニールハウス	8 棟	18.54 a
ガラス温室	1 棟	5.4 a
事務所兼作業場	1 棟	32 m ²
防除機	一式	
暖房機	2 台	
播種機	1 台	イージーシーダー
トラクタ	1 台	23ps、バケット付き
管理機	1 台	

2 課題と改善

(1) 苗物の規模拡大

現在、32万鉢の苗物を生産しています。

直売所は利益率が高いので、3年前から苗物の直売を増やし、10万鉢を地元の直売所に出荷しています。出荷量は市場7割に対して直売所3割、販売額は市場3割に対して直売所7割です。

今後、所得向上を図るには、市場への出荷量を維持しつつ、直売の割合を増やして、利益率の向上を図ります。ただし、現状の施設では32万鉢の生産が限界なので、ビニールハウスを3棟(7a)増棟し、年間39万鉢の苗物を生産したいと思っています。

(2) 労働力の確保と野菜生産

現在、農繁期に3~4名の雇用を入れて経営しています。

ただし、苗物だけでは冬場の仕事が少ないので、どうしても3~4ヶ月休んでもらうことになり、収入が途切れてしまうため、若くて優秀なメンバーを引き留めることができません。

そこで、息子の就農を契機に始めた野菜づくりを規模拡大して、ハウスで冬場に出荷できる葉物生産等に取り組み、周年雇用ができる体制づくりを目指します。また、夏場の高温期には苗物が売れなくなるので、周年コンスタントに所得を確保するため、夏場に出荷できるトマトの生産も増やしたいと考えています。

そこで、労働力の配分も勘案し、野菜栽培を倍増するため、野菜用のビニールハウスを1棟(2a)増棟したいと思っています。

なお、これらの収穫物は「」等に直売しています。現在、品薄が続いており、もっと生産量を増やして欲しいと言われているので、収量が増えても販売先には困りません。

(3) 配達要員の確保

直売が多くなると配達に時間と労力がかかるので、平成25年までは配達を中心にする従業員(年間雇用)を雇っていました。しかし、今年は従業員が辞めてしまい困っています。

そこで、など直売所への配達業務を任せるために、苗物の特性を理解し、接客(お客に説明)できるパート雇用を育てます。

(4) 後継者の育成

息子が就農して4年、興味のある野菜を中心に栽培を任せていました。苗物の栽培管理については、パート雇用と一緒に植付け作業や出荷の準備をさせていましたが、今年から苗物の灌水は全て息子に任せています。

仕事にも慣れてきたので、少しずつ責任を持たせ、仕事も増やし、専従者給与の増額を考えています。

今後は、雇用の労働管理も息子ができるよう研修させたいと考えています。

(5) 土入れ機の導入による省力化

現在使用している土入れ機(ビニールポットに土を詰める機械)の性能が

低いので、作業が止まってしまいます。規模拡大に当たり、土入れ機を2台に増やし、作業能率のアップを図りたいと考えています。

(6) 苗物生産でたいせつな土

苗物の良品生産には、土が重要な役割を担っています。健全な土を使えば問題なく栽培できますが、悪い土を使うと水管理（灌水）が難しくなり、病気が出やすくなり、出荷のロスが多くなるなど土の善し悪しで出荷量が大きく変わることがあります。

以前は、臭化メチルで土壌消毒をし、自分で土を作っていました。しかし、臭化メチルが使えなくなり、現在は全量購入用土を利用しています。ところが、現在利用している購入用土は品質が安定しておらず、鉢上げした花壇苗が次々に枯れてしまうなど、土では大変苦労しています。

そこで、蒸気消毒機を導入し、以前のように自分に合った土を作り、野菜と花で配合を変えるなど品質向上につなげたいと考えています。

(7) 播種機の導入

現在、種まき作業に簡易播種機（イージーシーダー）1台を利用しています。

しかし、直売が多くなったことで品数が増え、1品種毎に播種機の掃除をしながら、種が混ざらないように作業するため、作業能率の高い播種機を使っても種まきに時間がかかってしまいます。また、需要期に出荷するためには、種まき時期が集中するため、播種機1台では作業に遅れが生じています。

したがって、播種機を2台に増やし、作業の能率アップを図りたいと考えています。

栽培している品目の数

野菜 春=153品目、秋=62品目

花 年間=60品目

ただし、品種数はパンジー・ビオラだけでも50品種あり、全体では数千品種になる。

機械・施設名	現在 (H25)		目標	
	棟数	面積	棟数	面積
ビニールハウス	8棟	17.46 a	12棟	26.70 a
ガラス温室	1棟	5.40 a	1棟	5.40 a
露地圃場		25.00 a		25.00 a

主な品目の作型とハウス利用計画

○：種まき、◎：移植（定植）、△：接ぎ木、▨：出荷

品目		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花壇苗	パンジー ビオラ									○	◎	▨		
	コスモス									○ ◎	▨			
	ビンカ		○	◎		▨								
	マリー ゴールド サルビア			○	◎		▨				○ ◎	▨		
野菜苗	トマト キュウリ			○	◎		▨							
	ナス													○
	ブロッコリー									○ ◎	▨			
	トマト						◎							▨
野菜	レタス		▨									直播 ○		▨
	ホウレンソウ				▨							育苗して定植 ○ ◎		

- 花壇苗は、ビンカ、マリーゴールド等の春作とパンジー・ビオラ、コスモス等の秋冬作との組み合わせで、年2作のハウス利用が可能。
- 野菜苗も春作と秋作の組み合わせで、年2作のハウス利用が可能。
- 野菜は、促成トマトと葉物野菜（リーフレタス、サラダホウレンソウ）2作で年3作のハウス利用が可能。

4 今後の具体的な取り組みと役割分担

事業内容	事業費	H26	H27	H28	連携機関
ビニールハウスの導入 6m間口×45m×2棟	500万円	◎			県・町・本人
ビニールハウスの導入 6m間口×37m×1棟	165万円	◎			県・町・本人
ビニールハウスの導入 6m間口×27m×1棟	130万円	◎			県・町・本人
土入れ機の導入	100万円		◎		県・町・本人
土壌蒸気消毒機	100万円		◎		県・町・本人
播種機の導入	25万円	◎			県・町・本人
事業費合計	1,020万円	820万円	200万円		
がんばる農家プラン 事業費合計	1,020万円	820万円	200万円		

* ◎はがんばる農家プラン事業で行うもの。

* がんばる農家プランで行う事業の本人負担 1/2 部分については、スーパーL資金を活用予定。